

 対象：静岡・愛知など東海エリアの経営者様へ

『自走型・AIによる業務改善』 初めての人への実践ガイド

～なぜ、あなたの会社の自動化は
『他人事』で止まってしまうのか？～

MISSION

 現場の言葉で、明日から動ける業務改善の道筋を示す

REGION

 東海エリア（製造・サービス）





— 0. Introduction

経営者が直視すべき 『静かなる危機』

毎日、手作業に追われる社員の背中。その姿を見守りながら、胸の内で「このままで良いのか」と問いかけていませんか。

残業は増えるのに利益は伸びにくい。人手の確保も難しい。声を上げないからこそ見えにくい“**静かな危機**”が、確実に積み上がっています。

本書は、その不安を“**自分たちの力**”でほどいていくための道しるべです。

- 01 【事例】 今日から現場が「自ら」変えられる。自動化8つの事例
- 02 【道具】 高額システム不要。現場が使いこなせる「新しい道具箱」（自動化に役立つAIツール紹介）
- 03 【真因】 なぜ現場は「主体的に」自動化を進めないのか
- 04 【解決】 自動化を「自分事」にするポイント
- 05 【実践】 AI & ワークショップの特徴と流れ
- 06 【弊社紹介】

【事例】 今日から現場が 『自ら』 変えられる

8つの自動事例

現場が自分の頭と手で回し始めると、会社は静かに強くなる。



しゃべるだけで終わる日報

Before



帰社後の「思い出して書く」30分

現場作業が終わってから事務所に帰り、疲れた体で机に向かう。
「今日何やったっけ…」と思い出しながら、**手書きで日報を埋める作業に毎日30分。**

After



作業直後の「話しかけるだけ」日報

作業が終わったら、その場でスマホに向かって話しかけるだけ。
AIが**文面を整え、要点を自動で整理**してくれる。



効果

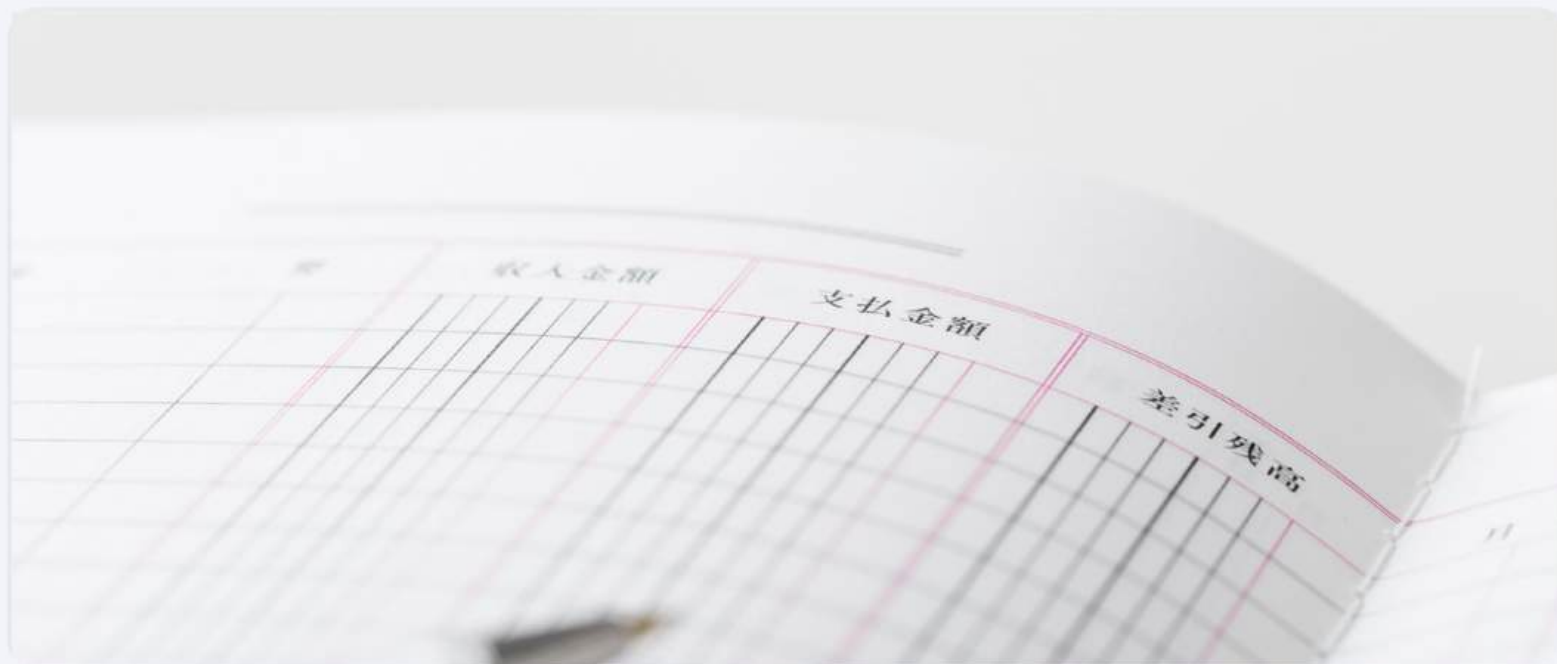
1人あたり20分/日の短縮

💡 **小さな工夫**

朝の定型フレーズを用意（例: 今日の目的→やったこと→気づき）して、それに沿って話すだけ。

紙の請求書の自動読み取り

Before



手入力で台帳へ転記する緊張感

届いた紙の請求書を見ながら、Excelや会計ソフトに数字を一つずつ手入力。

「転記ミス」が月に数件発生し、月末の締め作業で数字が合わず残業に。

After



スマホで撮影、データ化は自動

スマホで請求書をパシャリと撮るだけ。
読み取り精度が低い「怪しい数字」は色付きで注意表示されるため、そこだけ人間が確認すればOK。



効果

入力時間**50%**削減

💡 小さな工夫

撮影用の黒い下敷きを置くと読み取り精度が上がります。



— CASE STUDY 03

見積のひな形づくり

🚫 現状

過去の見積を探して流用するため時間がかかる。品番や但し書きの表現が人によってバラつく。

✍️ 改善

製品名と条件を伝えると、過去の言い回しを参考にした案文と品目表の「たたき台」を自動作成。

📈 効果

作成時間30%短縮。表現の統一で問い合わせが減少。

💡 **小さな工夫**：よく使う注意書きを“見本帳”として1枚にまとめておく。

会議メモの要点整理



現状 会議後に長文メモを作成するが、後で読み返す気力が湧かない。何が決まったのかが埋もれてしまう。

改善 録音メモから文字起こしを行い、「決まったこと」「宿題」「期限」の**3区分で自動的に整理**する。

効果 宿題の取りこぼしが激減。振り返りが容易になり、次回の進捗会議が短くなる。



現場の小さな工夫

会議の冒頭で「今日決めたいことは〇〇です」と言い切っておくと、AIが要点を拾いやすくなります。

定型メールの下書き

AIが丁寧な下書きを用意。最後は人が想いを込める。



現状

出荷連絡や納期回答など、同じようなメールでも文面を一から考えるのに毎回時間がかかっている。

改善

要件（「明日出荷」「14時着」等）と相手名を伝えるだけで、AIが敬語や型を守った下書きを一瞬で作成。最後に人が確認・修正して送信。

効果

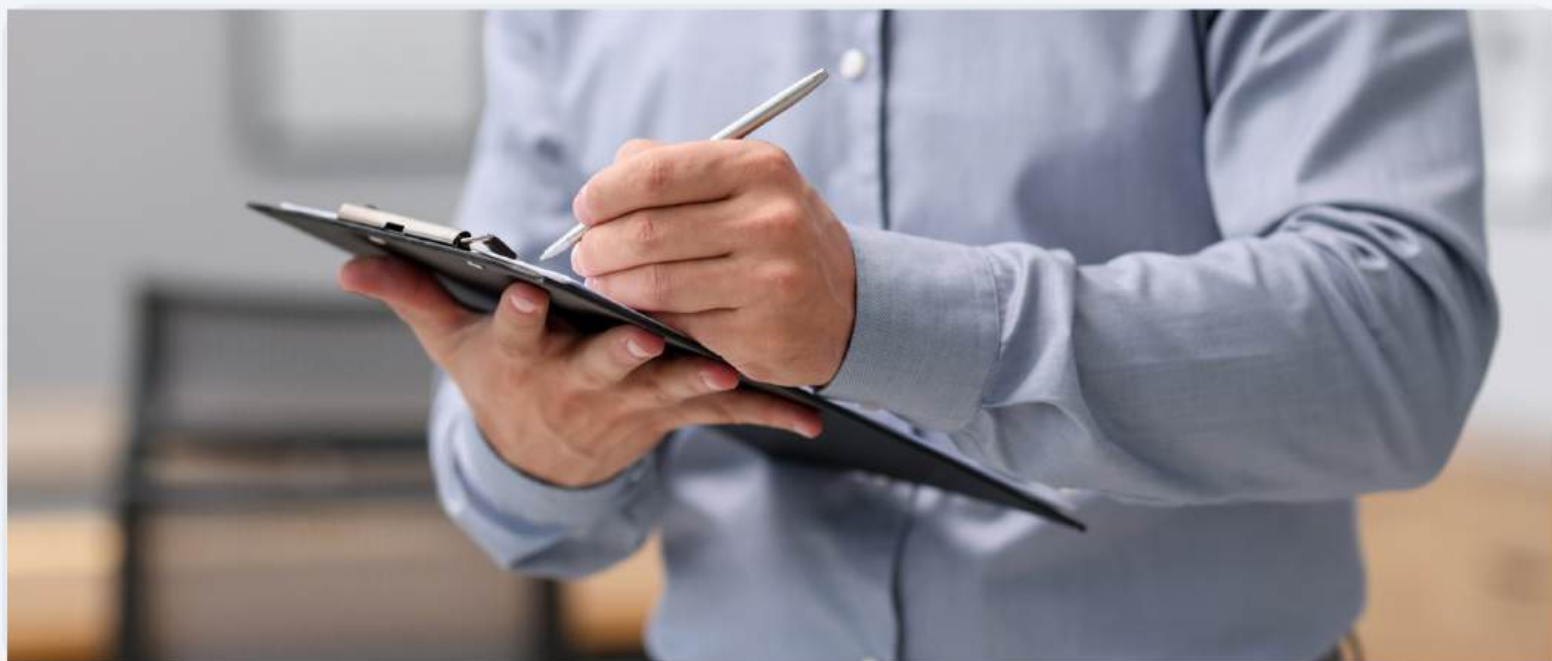
作成時間を**40%短縮**。担当者による表現のバラつきや誤字脱字も減少。

💡 小さな工夫

よく使う語尾やNG表現を“**社内の言い回しルール**”として共有し、AIへの指示に含めると修正の手間がさらに減ります。

写真から検品チェックリスト化

Before



写真とメモが「バラバラ」で活用不能

不良品の写真を撮っても、個人のスマホに埋もれて終わり。
メモも手書きで統一感がなく、**人によってチェック項目がバラつく。**

After



写真から「標準リスト」を自動生成

製品写真や図面を読み込ませるだけで、AIが必要な確認項目をリスト化。
「どこを見るべきか」が明確なチェック表が瞬時に完成する。



効果

検品の抜け漏れ激減・教育効率化

💡 小さな工夫

生成されたリストを、現場で作業しやすい順序に並べ替えるひと手間を最初にかける。

10

発注点の予備アラート

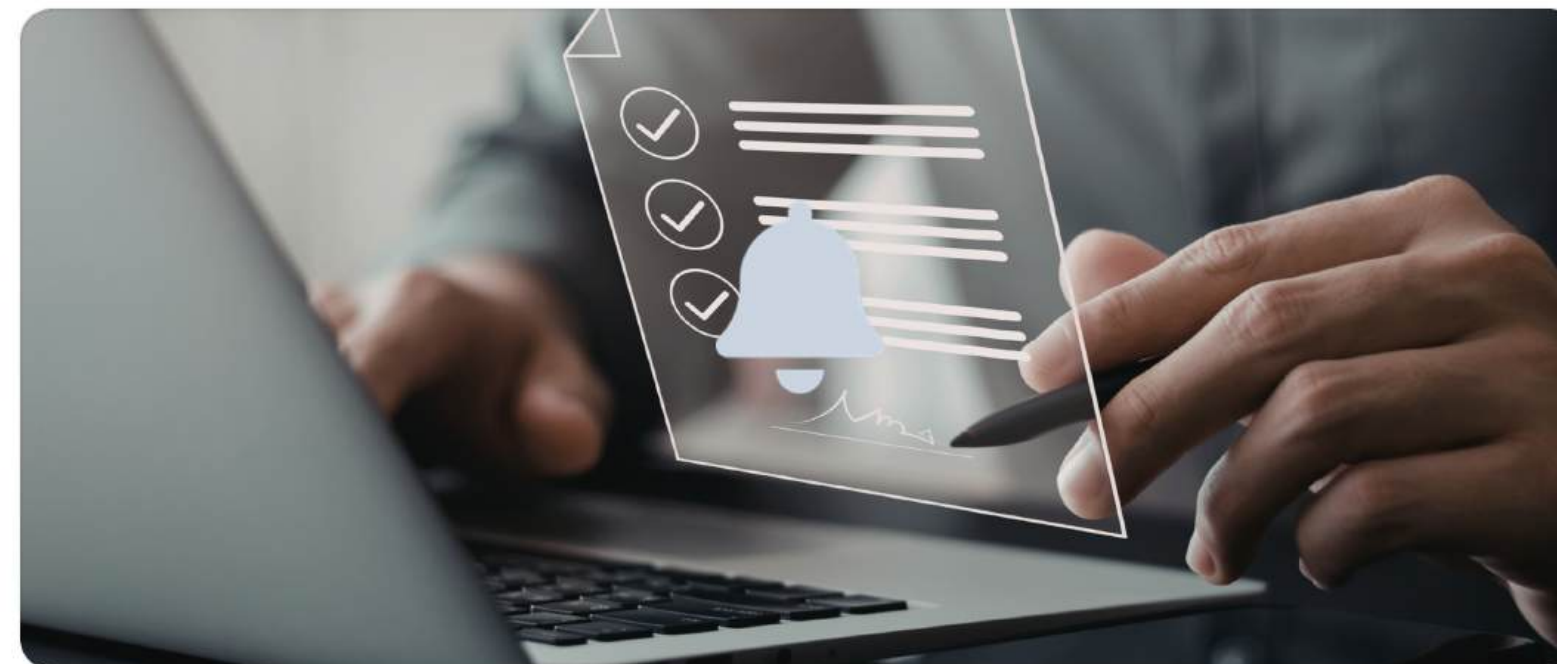
Before

在庫表への赤ペン記入



After

色付き予備アラート表示



「そろそろかな？」の勘と経験

欠品は避けたいが在庫を持ちすぎたくないジレンマ。
台帳を見ながら「そろそろ発注か？」と赤ペンでチェックを入れる日々。気づいたら在庫切れ寸前というヒヤリも。

データが教える「そろそろ注意」

過去の出荷数とリードタイムから、AIが「そろそろ注意」を色でお知らせ。
発注するかどうかの最終判断だけを人が行う。



効果

欠品ヒヤリ減少・在庫の平準化

💡 小さな工夫

“本当に足りない時の合図”を現場言葉（例：「赤ランプ」）で決めておく。



社内ナレッジAI

オンライン

今日 10:23

先週のA社向け特注品の加工温度の設定値を教えてください。

10:23

社内日報DBより検索

A社向け特注品（品番X-99）の加工温度は **230°C** です。

⚠️ 注意：通常品より10°C高めです。冷却時間は+5分確保してください（担当：田中）。

10:23

了解です。
念のため田中さんにも確認します。

10:24



メッセージを入力...

— CASE STUDY 08

ベテランの知恵を教える 社内チャット

現状 相談はタイミング次第。ベテランへの口伝えの質問が多く、本人も作業を中断せざるを得ない。

改善 社内資料や過去の日報を学習した“社内向けの相談相手”を用意。新人が24時間いつでも下調べできる。

効果 **ベテランの呼び出し回数が激減し、集中時間が増加。新人の立ち上がりスピードも加速。**



小さな工夫

「この答えは古い可能性があります」などの注意書きを自動で添えて、最後は必ず人に確認する流れを徹底する。

【道具】高額システム不要。 現場が使いこなせる 『新しい道具箱』

道具は“魔法の杖”ではない。
現場の手になじむ“進化した工具”である。

PART 02 AIツール（一部抜粋）

役割（カテゴリー）	ツール名	提供元	主な特徴・メリット	月額目安（1名/税込）
【1. 話し相手・考える脳】 文章作成や思考整理	Gemini	Google	Google Workspace連携が強力。いつもの画面で要約や返信案を作成できる。	約3,000円～4,500円 (Business/Enterpriseプラン)
	ChatGPT	OpenAI	万能な相談役。データ分析や計画のたたき台作成など、汎用性が非常に高い。	約3,000円～4,500円 (Plus/Teamプラン)
【2. 作る腕・現場の工具】 専用の道具を自作する	Claude Code	Anthropic	最新の自律型ツール。指示だけでプログラムを書き実行する。開発スピードが圧巻。	約3,000円～4,500円 (Pro/Teamプラン ※API利用は従量制)
	Cursor	Cursor	AI対話型エディタ。日本語で指示を出すだけで必要なコードを予測・提案する。	約3,000円～6,000円 (Pro/Businessプラン)
【3. 繋ぐ鎖・自動化の仕組み】 アプリを繋ぎ、自動で流す	Make	Make	ノーコード連携ツール。人が見張らなくても情報が流れる「自動道路」を構築。	約1,500円～5,000円 (Core/Pro/Teamsプラン)



安全運転の基本

AIを使いこなすための4つの鉄則



取扱注意

便利な道具も使い方を誤れば
怪我（トラブル）のもと。
まずは安全第一で。



情報は「持ち出さない」**最重要**

社外秘・個人情報は入力しない。具体的な固有名詞は「A社」「Bさん」などに置き換える。



まずは「練習場」で試す

いきなり本番データを使わず、失敗しても良いテスト用の題材で操作に慣れる。



最後は必ず「人が目を通す」

AIはうっかりミスをする新人と同じ。出力結果を鵜呑みにせず、責任者が最終確認を行う。



費用は「小さく始める」

最初から高額なシステムを入れない。無料版や少額プランから始め、効果が見えたら広げる。

【真因】なぜ現場は『主体的に』 自動化を進めないのか

壁は技術ではなく“気持ち”にある。
恐れ、あきらめ、慣れ——見えない壁を見える化する。

透明な壁：対話の不足

「仕事が奪われる」という 恐怖と誤解

本音

「道具が賢くなったら、自分たちの居場所や仕事がなくなるのではないか」という不安。

実際

AIが減らすのは“面倒な作業”だけです。人が持つ“腕前”や“判断力”は、むしろ際立つようになります。

対処

先に「戻した時間の使い道」を決めてください。品質確認、人づくり、お客様対応など、人にしかできない仕事へ。

心理的な障壁

誤解

情報格差

価値観の違い

透明な壁：対話の不足



壁2 | 自分には無理という思い込み

本音

「機械は苦手だ」「若い人に任せた方が早い」と、最初からシャッターを下ろしてしまう。

実際

特別な技術は不要です。具体的な「声かけ（指示）の工夫」と「見本」さえあれば、誰でも回せます。

対処：10分×3日の練習から

いきなり全部やろうとしない。まずは身近な「ちょっとした面倒」を1つだけ軽くすることから始めましょう。

壁3 | 今のままでも 動いているという『慣れ』

🗣️ 現場の本音

「特に困っていない」「今まで通りで問題なく仕事は回っている」

⚠️ 実際の損失

見えないムダ（探す・待つ・数える）が、毎日少しずつ利益を削り続けています。

💡 対処法

「面倒ベスト3」を見える化する

1日の作業の中で「面倒だ」と感じる瞬間を3つ挙げ、一つずつ負担を軽くしていきます。



見えないムダ

【解決】自動化を『自分事』にし 組織全体の生産性を高めるために

道具より先に 『意志 (Will)』から始める



空いた時間の使い道を決める

「新規事業に挑戦したい」「若手の相談に乗る」。ムダを減らして生まれた時間を何に使いたいか、ポジティブな目的を先に描きます。



目的が手段を決める

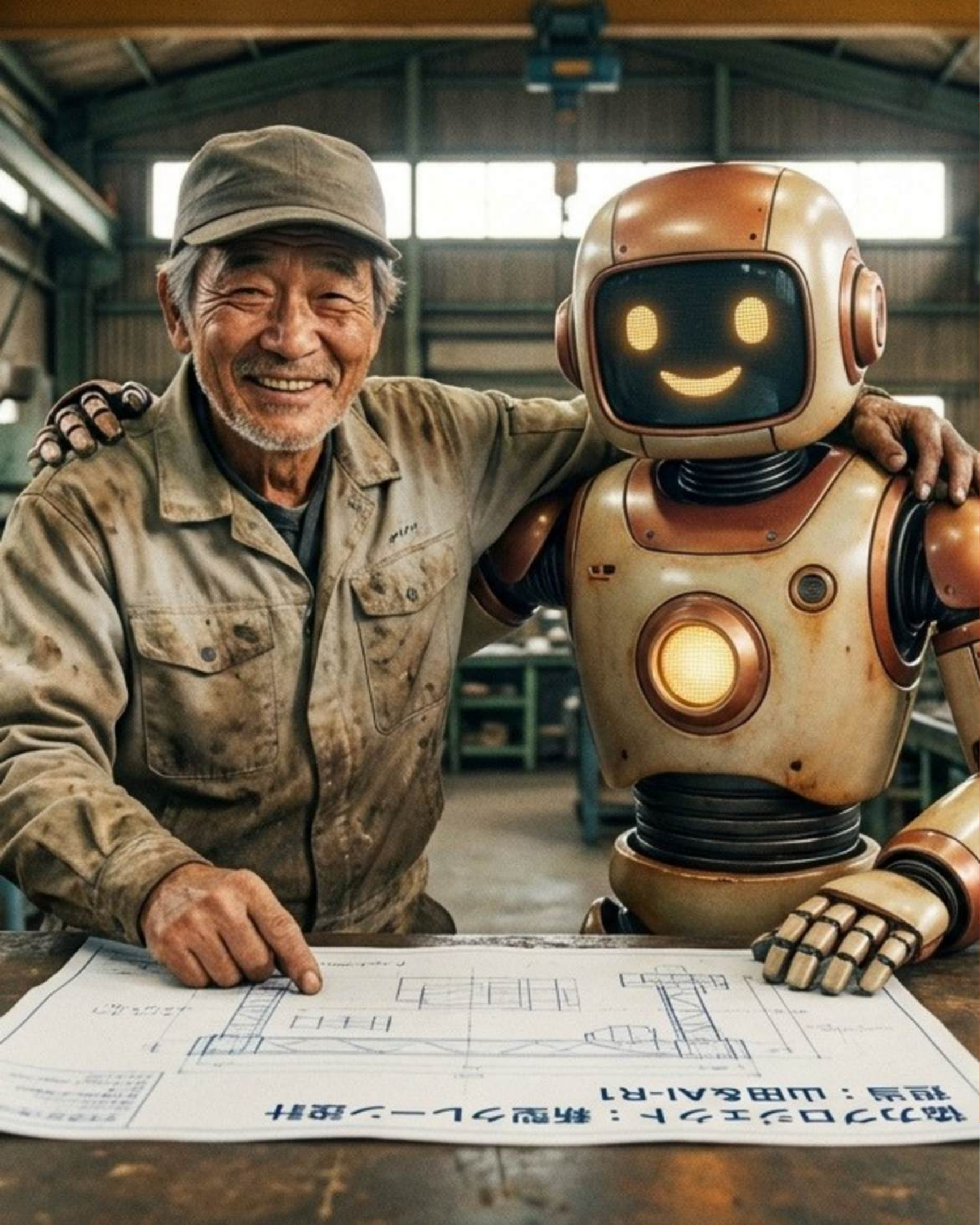
「何のために」が明確であれば、やり方は自然と決まります。目的のない自動化は、現場の負担を増やすだけです。



道具は最後に選ぶ

最初から高機能なシステムを入れる必要はありません。意志さえあれば、無料のツールや既存のソフトで十分に変えられます。

「楽になった時間で、誰を笑顔にしたいですか？」



AIは「敵」ではなく 最高の『相棒』である



相棒化

AIは仕事を奪う敵ではありません。面倒な単純作業を引き受け、あなたの「職人としての腕前」をより際立たせる存在です。



役割分担

「相棒が下ごしらえ、人が仕上げ」。これが鉄則です。8割の完成度までAIに任せ、最後の責任ある判断だけを人が行います。



ログセを変える

「まずは相棒にたたき台を作らせよう」。ゼロから考える苦労を手放し、修正することから始める習慣をつけましょう。

Nuevo Labのアプローチ

AIは最強の「相棒」になる



🔗 「操作」ではなく「意志」の点火

AIの知識量ではなく「この作業を終わらせたい」という願いを重視。Claude Code等のツールの使い方は、自走に必要な最小限の伝授に留める。重視するのは、社員自らが内発的動機に基づき、「自分の手で業務を書き換える」という主体的かつ創造的な衝動を呼び覚ますことにある。



🔄 成功体験の「組織伝播」

一人の成功を組織の「当たり前」へと昇華させる。仲間がAIを相棒に仕事を楽にしている姿は、何よりも強力な動機付けとなる。「自分にもできる」という確信が連鎖したとき、組織の共通言語は「無理だ」から「こう変えよう」へとアップデートされる。



🎯 創出した「余白」の戦略投資

効率化は通過点に過ぎない。AIによって奪い返した時間を、顧客への付加価値向上や、10年後の事業を創る対話へと再投資する。AIに作業を任せ、人間にしかできない「未来を創る仕事」に社員を向かわせる。これが、ヌエボラボが提唱する組織開発の終着点だ。

自動化の成否を分けるのは、スキルの高さではない。
「この仕事を、自分たちの手でより良くしたい」という純粋な意志である。
私たちは、現場の知恵をAIという翼で解き放ち、会社の未来を自力で創るための「伴走」を行う。

ワークショップの流れ

成功体験の醸成と組織の共通言語化を図る

Step 01: 意志の再点火(着火)

自分をハックする

キックオフワークショップ

仕事の相関図を描き、1週間の時間配分を徹底分析。本来生むべき価値と「作業」のギャップを直視する。自身の「志」を再定義し、自動化したい業務を自ら選定。Claude Code等の最小限の武器を習得し、その場で一つ物理的に作業を消滅させる。

2-4週間:現場での個人実装



私でもできたね！
AIって思ったより
簡単だったね

時間が空いたら
新商品企画に
チャレンジしたい！

Step 02: 当たり前の刷新(覚醒)

「知」を共鳴させる

ナレッジ共有ワークショップ

個人で得たハック術をシェア。「自分にもできる」という集団心理を活用し、AI活用を組織の共通言語へ。視点を自分のデスクから「隣の部署との間にある不便」へと意識を広げ、組織横断の課題を特定する。

2-4週間:部署間課題の深掘り



そんなことも
自動化できるんだ！

私にもやり方
教えて！

Step 03: 組織OSの刷新(構造改革)

壁を壊し繋げる

境界突破プロジェクト始動

部署を越えたチームを結成し、情報の断絶や二度手間を解決する仕組みを自律的に構築。外部に頼らず自分たちで仕組み(OS)を書き換える実感を共有会で爆発させる。

2週間:チームでの実装と改善



個人の自動化は進んだけど
やっぱりうちのボトルネックは
〇〇だよな！

よし！自動化に向けて
プロジェクトを発足だ！

Step 04: 未来への宣誓(結実)

ミッションを再定義する

熱量の再点火セッション

作業から解放されたとき、私たちは本来何を成し遂げる集団なのか。AIには代替不能な人間ならではの情熱に基づいた「新しいミッション」を言語化。生まれた余白をどの未来に投じるか、経営者と共に誓う。



組織横断的な
自動化も進みそうだね

私たちは作業から解放されて
一体どんな価値を生み出して
貢献していく会社なんだろう？

❓ 社内にITやAIに詳しい人間がいませんが、大丈夫でしょうか？

はい、全く問題ありません。このワークショップの目的はエンジニアを育てることではなく、現場をより良くする「工夫の達人」を増やすことです。ツールの使い方は自走できるまでしっかりサポートしますし、何より「現場の痛み」を知っている方にこそ、AIという道具は大きな力を貸してくれます。

❓ どのようなAIツールを使うのですか？

汎用性が高く、現場でメンテナンスしやすいツールを選定します。特定の高額なシステムを導入することはありません。大切なのは「どのツールを使うか」ではなく、「自分たちの力で最適なものを選び、使いこなす力」を身につけることです。プログラムが終わった後も、自分たちで更新していける環境を整えます。

❓ 現場から「また仕事が増える」と反対されませんか？

そのために「本人のやりたいこと」からスタートします。無理やりツールを押し付けるのではなく、まずは「自分の時間が空いて楽になる」体験を最優先します。作業が減り、本来やりたかった仕事に集中できる喜びを実感することで、反対の声は少しずつ「もっとやってみたい」という意欲に変わっていきます。

事業進化と人材・組織開発を統合的に支援する伴走パートナーです

私たちの専門性



組織現状分析力

組織の真相課題を特定



新規事業開発

0→1 / 1→10の事業立ち上げ支援



人材開発プログラム

個を覚醒させるプログラム



組織開発

事業加速を可能にする組織づくり



教育の内製化支援

社内で人が育つ仕組みの構築

📄 企業情報

代表取締役

寺澤 のぞみ

導入実績
(一部)



所在地

静岡市駿河区中田1-4-5



設立

2022年2月

事業内容

企業コンサルティング



OUR VISION

東海から 持続可能なイノベーションを

Creating sustainable innovation from the Tokai region

代表挨拶

成長と創造の喜び溢れる地域社会へ。ともに

早稲田大学卒業後、不動産ベンチャーでのキャリアは、リーマンショックによる入社半年の希望退職という形で幕を閉じました。その時味わった悔しさと無力感が、「個が輝く、魅力的な組織づくり」という私の生涯のミッションに繋がっています。

その後、人材・組織開発コンサルティングファームにて11年間、老舗企業の変革や事業再生の現場に従事。人が成長する。組織が変化する。その瞬間に立ち会い続けてきました。

しかし、既存の枠組みの中だけでは届かない想いがあると感じ、2019年に株式会社Nuevo Labを設立。スペイン語で“新しい”を意味するNuevo。「もっと深く、もっと近くで支えたい。そして人と組織が持つ新たな可能性を広げていきたい」という想いを形にし、自らも理想のチームを体現することを目指しています。

そんな私が、なぜここ静岡・東海を拠点に選んだのか。正直に申し上げますと、最初は「結婚」という個人的な転機がきっかけでした。当初からこの地でのビジネスを戦略的に描いていたわけではありません。

しかし、この地で暮らし、一人の母として子どもを育てる中で、私の中に強い願いが芽生えました。「我が子が育っていくこの地域は、大人たちがイキイキと働き、挑戦を楽しむ“希望あふれる場所”であってほしい」

このエリアには、実直にモノづくりに向き合い、日本を支えてきた素晴らしい企業がたくさんあります。大切にしてきた想いを、次代へつなぐ。時代に合わせて、新しく翻訳する。継承と変化、その両方を支えていきたい。

そのために、私たちは常に問い続け、挑戦し続けます。御社の「これから」を共に創る、一番近くのパートナーとして。

株式会社Nuevo Lab 代表取締役 CEO 寺澤 のぞみ



プロフェッショナルチームが組織変革を支えます



代表取締役 CEO

寺澤 のぞみ

現状分析

事業開発

人材・組織開発

早稲田大学卒業後、不動産ベンチャーに就職するも同年のリーマンショックにより業績が急変。やむなく希望退職を選択。希望を抱き就職した会社をわずか半年で離れることに大きな喪失感を抱えたと共に「事業の発展を人と組織の側面から支えたい」という想いを抱き、人材系コンサルティングファームへ入社。老舗メーカーの戦略転換、介護事業社のターンアラウンド等、在籍した11年間で手がけたプロジェクトは数十を超える。2019年、もっと顧客に寄り添ったサービス提供と、意義に集う新しいチームの体現を目指し株式会社Nuevo Labを設立。Nuevoはスペイン語で「新しい」という意味を持ちます。既存の枠にとらわれない新しい発想で、人と組織の成長を支えていきます。



SENIOR CONSULTANT / 元ハンバーガー大学学長

佐野 博文

人材開発

教育内製化

店長、SV、統括SV、FCビジネスコンサルタント、ハンバーガー大学トレーニング統括マネージャーを歴任後2004年営業部長として、関東エリア380店舗、社員530人・年商400億円のビジネス戦略をリード。2007年人事部長として人事考課システムの開発導入と労務管理全般に携わる。2009年、全国17万人の従業員教育プログラムの開発と実行の総責任者としてハンバーガー大学の学長に就任、ハンバーガー大学最多数の年間15,000人への研修を実施。2012年退職し、その後独立。「日々会社で素晴らしい貢献をされているビジネスパーソンが毎日笑顔で楽しく通勤できる世の中を実現したい」。



シニアコンサルタント

新田 祐介

現状分析

組織開発

大学卒業後、地方自治体にて広報業務に従事。その後人材系ベンチャー企業の立ち上げに参加してエリアマネージャー、事業部長を経て、執行役員として上場を果たす。2002年取締役として人材開発・組織開発コンサルティングファームの立ち上げに参加。17年間人材開発プログラムの企画・実施、経営理念の構築・浸透、人事制度や教育制度の設計、組織風土変革などのコンサルティングサービスを展開し、エグゼクティブコーチとしても数多くの経験を持つ。現在は個人事業主「アウェイキング」として独立し、「個人の持つ才能の開花」と「それを活かす組織開発」をテーマに活動している。好きな言葉は「It's My Choice」。どんな状況でも選択肢があることに気づき、自らが選択することで人生を主体的なものにする事の大切さを伝えることを心がけている。



Executive Director

早瀬 由美

事業開発

豊橋市出身及び在住。建築、デザイン、マーケティングを学び、食品メーカーに入社。商品開発兼 marketer・リサーチャーとして売上6億円のヒット商品を開発。2014年に伝統工芸品ECサイト「日本デザインストア」を創業。4年で年商1億円に達し売却。現在はデザイン事務所Wonder Design、「とよはしの匠」が創るフルオーダーメイドテラーSyuhariを経営。デザイン思考を用いた新規事業・商品開発の他、ロゴデザイン・ネーミング・ライティング・ブランディング・生活者調査・動画制作などスタートアップや新事業開発に関わる幅広い業務支援を行う。



シニアコンサルタント

塩田 昌弘

人材開発

組織開発

教育内製化

大学卒業後に大手電気機器メーカーに就職するもアセスメントで配属を決める姿勢に反発し1年で退職、その後大手飲食チェーンに第二新卒で入社。本社勤務を含めて18年の在籍期間のほとんどが超人手不足、長時間労働、パワーハラスメントの中で過ごし現場の痛みを痛感する。その後人材開発コンサルに転職しホールシステムアプローチと出会う。一貫して現場のエネルギー向上が業績につながるという姿勢を貫く。社内大学構築や社内講師育成のスペシャリストでもあり、深い愛情を持ちながらも厳しいフィードバックで育成するスタンスから、顧客に「博愛のジャックナイフ」と呼ばれる。その後もNVCやティール組織などを理想論で語るのではなく、現場のプロセスに落とし込むプロセスを開発し多くのコアファンから支持を受ける。

OUR MISSION

東海から
持続可能なイノベーションを

Creating sustainable innovation from the Tokai region

お問い合わせ先



cs@nuevolabteam.com



<https://nuevolabteam.com>

